

V201a 光・赤外線天文学大学間連携 この1年

黒田大介、関口和寛(国立天文台)、秋田谷洋(広島大学)、面高俊宏(鹿児島大学)、斉藤嘉彦(東京工業大学)、永山貴宏(名古屋大学)、野上大作(京都大学)、諸隈智貴(東京大学)、渡辺誠(北海道大学)、ほか大学間連携観測チーム

平成23年度から発足した「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築」事業では、日本の大学と国立天文台が国内外に持つ中小口径望遠鏡が連携して、突発天体の即時対応・連続フォローアップ観測を行う地球規模ネットワークを構築を目指している。サイエンスターゲットは、ガンマ線バースト、超新星爆発、激変星、X線連星、太陽系天体のバースト現象などを想定している。大口径の望遠鏡では、達成困難な研究領域、特に時間軸の探究の領域で、最先端研究を共同して行うことにより、大学での教育と研究を促進する狙いがある。

初年度である今年は、この事業を進めていく上で、詳細な方針やルールを決めるために、各機関から1名を選出し観測企画委員会を結成した。まだ手探りで進めている段階であるが、2011年4月と9月に2回のキャンペーン観測では、あらかじめ決まったターゲットを長時間にわたって多色同時測光観測を実施した。また、ToO的な観測として、10回の観測要請に対してガンマ線バーストや超新星など7天体について観測を行った。詳細なサイエンスの成果報告は、各PIが行う予定である。さらに、装置開発についても協力関係が築かれつつある。

将来的には、望遠鏡を持たない大学の研究者や学生からの観測テーマを受け付けるような仕組みを作っていきたい。そこから大学の教育研究基盤の強化や人的交流の活性化を図り、光・赤外線天文学の研究教育拠点の形成と発展を進めたいと考えている。本講演では、大学間連携の紹介とこの1年の成果、将来計画について述べる。